

麴町八丁目邊十五軒 鎌倉河岸邊同斷 大橋の内柳町廿軒

如此にて有し後茅町へ一統に集る、その後又處々に風呂屋といふ物出來り、分て神田丹後殿前木挽町などは、殊の外賑ひけるとぞ、近世いへる岡場所の類也、

〔慶長見聞集^七〕よし原に傾城町立る事

見しは今、江戸繁昌故日本國の人集り家作りなすによつて、三里四方は野も山も家を作り寸土のあきまなし、然るに東南の海きわによし原有色このみする京田舎の者ども、此よし原を見立、けいせい町をたてんと、よしの蒞跡、爰やかしこに家作りたりしは、たゞかにの身のほどに穴をほりすみ居たるが如し、○中日を追月を重ねるに隨て、此町繁昌する故草のかり屋を破り、西より東、北より南へ町わりをなす、先本町と號し、京町、江戸町、伏見町、堺、大坂町、墨町、新町と名付、家居び、しく軒をならべ、板ぶきに作りたり、扱又此町を中に籠て其めぐりにあげや町と號し、幾筋とも數しらす横町をわり、のうかぶきのふたいを立おき、毎日舞樂をなして是を見する、此外勸進舞、蜘蛛舞、獅子舞、すまふ、じやうるり、いろく、様々のあそびしてぞ興じける、これらの見物をかごとになし、僧俗老若貴賤、此町に來りくんじゆす、ちからをもいれずして、人をまどはすけいせいのはかり事、思の外也、

〔異本洞房語園^上〕吉原開基之次第

慶長の頃迄、御城下^戸江、定りたる遊女町なし、傾城屋所々にありし中にも、軒をならべ集り居たる場所三四ヶ所あり、麴町八丁目に十四五軒、鎌倉河岸に同斷、大橋の内柳町に廿餘軒、右大橋の内柳町といふは、今の常盤橋御門の内にて、道三河岸の邊なり、天正年中より殊に賑ひし町也、其頃京都萬里小路柳の馬場といふ町に、原三郎左衛門といふ者、取立し遊女町を柳町といひし、玄かれども彼名をかり用ひたるにはあらず、江戸の柳町は、其町の入口に、幾年經しともしれぬ大